

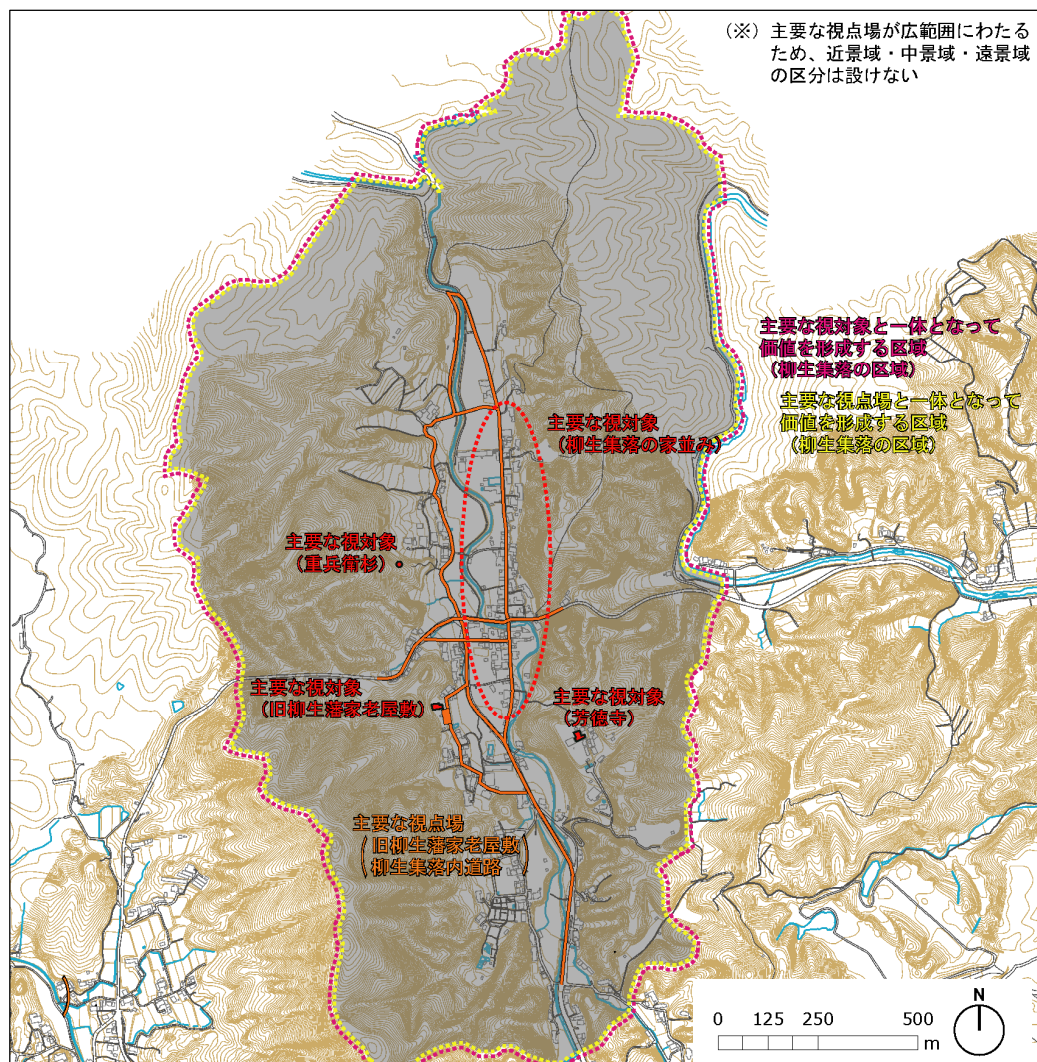
No.35 柳生の里の眺望

(1) 眺望景観の概要

① 眺望景観の構成

類型		Ⅵ：生活・生業型眺望景観	
視点場	主要な視点場	旧柳生藩家老屋敷、柳生集落内道路	
	主要な視点場と一体となって価値を形成する区域	柳生集落の区域	
視対象	主要な視対象	旧柳生藩家老屋敷、芳徳寺、十兵衛杉、柳生集落の家並み等	
	主要な視対象と一体となって価値を形成する区域	柳生集落の区域	
眺望空間	近景域	柳生集落、農地、山林	
	中景域	柳生集落、農地、山林	
	遠景域	—	
	周囲の山並みの稜線で囲まれた区域とする。		

■ 眺望景観の構成図



②奈良らしさ

i) 目に見える景観の特性

近景に広がる水田は、柳生集落へのパノラマを創り出すとともに、背後の山林と一体となつて、四季の移ろいを感じられる彩り豊かな自然景観を創り出している。

山裾に街村状に連なる柳生集落には、新しい建築物等もみられるが、低層に抑えられており、農地－集落－山林の明確な土地利用の秩序が残されているため、全体として自然に溶け込んだ美しい眺望景観を創り出している。

ii) 心で感じる景観の特性

○歴史的背景

旧柳生藩家老屋敷は、国家老として江戸から柳生の里に移り、藩財政を立て直した小山田主鈴が、藩主柳生俊章から賜った土地に営んだ旧隠居宅である。一時人の手に渡ったが、その後、山岡荘八が買得し、NHK 大河ドラマ「春の坂道」の原作はこの屋敷で構想を練ったと言われる。後、山岡荘八の遺言によりこの屋敷は奈良市に寄贈された。現在は、小山田主鈴や山岡荘八、柳生藩の資料館として刀や鎧などの武具や各種生活道具などが展示されており、当時を忍ばせる。

○民俗文化・生活文化／文学・芸術作品／説話・伝承

柳生集落は、山岡荘八が剣術家・柳生但馬守宗矩の生涯を描いた小説「春の坂道」を著し、昭和 46 年（1971）に同小説をもとに NHK 大河ドラマ「春の坂道」が放送されることにより有名になった。剣豪の里として数多くの説話・伝承が残され、語り継がれている。

- ・宮本武蔵は、柳生新陰流の創始である柳生石舟斎に戦いを挑む為、柳生を訪れた。その宿で同じく試合を望む吉岡伝七郎宛に送られてきた断りの手紙に添えられていた芍薬の切り口の鋭さに驚き、武蔵はこれほどの手腕の者がいるとは柳生一族の実態は世間でいう以上なのかもしれないと思ったという。



■ 柳生家にまつわる歴史文化遺産

- ・柳生石舟斎宗厳が修行中に天狗を切ったと思ったら天狗はいなくなっており、代わりに巨石が真二つに割れていた。それが一刀石であると伝えられている。
- ・柳生十兵衛が家光の内命で西国大名の動向を探るため、10 年余り西国・九州をめぐるが、その出立の際、先祖の墓所である中宮寺に一株のスギの若木を植えておいた。それが十

兵衛杉として、柳生の里の象徴となっている。

○眺望景観の構成要素の関係

山中にも、柳生家にまつわる剣豪の里らしい歴史文化遺産が数多く分布し、視覚的には見えないものの、歴史を感じられる眺望景観である。

iii) 情報としての景観の特性

○名所案内記・絵図等

柳生集落は、寛政3年（1791）の「大和名所図会巻ノニ」に「柳生營」がみられる。

○インベントリー

奈良は「新日本観光地百選」（昭和62年）に選定されており、そのなかの観光地のひとつとして柳生もあげられている。

奈良と柳生を結ぶ柳生街道は「歴史の道百選」（平成8年）にも選定されている。

（２）眺望景観の保全・活用の現状と課題

①守るための視点

近景に広がる農地は、市街化調整区域かつ農業振興地域であり、農振農用地も広く指定されているため、大きな土地の改変のおそれは少ない。しかし、個別の農地転用などにより、視線を遮るような建築物等、広がりのある農地景観に馴染まない形態意匠等の建築物等が建設されるおそれがある。また、屋外広告物の設置による景観阻害のおそれがある。屋根並みの保全をはじめとした集落景観の保全・形成のため、建築物等や屋外広告物の高さや形態意匠等の制限が求められる。

②整えるための視点

電柱電線類が視界に映り込む。電柱電線類の美装化等が求められる。

周囲の自然豊かな景観に馴染まない建築物、工作物、屋外広告物などがみられるため、修景が求められる。

③活かすための視点

観光客アンケートであげられた眺望景観であり、奈良の主要な観光地のひとつとして、地域住民と連携しながら、眺望景観も含めた積極的な情報発信をしていくことが求められる。

視点場として整備されている場所はなく、柳生集落や周囲の歴史文化遺産との関係が分かるような案内板や休憩施設の設置などの検討が求められる。

(3) 眺望景観の保全・活用の目標と方針

①眺望景観の保全・活用の目標

前述の「奈良らしさ」の整理より、柳生の里の眺望の主題（コンセプト）は、「剣豪の里・柳生として全国的にも有名であり、集落内からは、農地や集落の家並みとともに、剣豪にちなんだ歴史文化遺産のいくつかを望むことができる眺望であること」といえる。

そこで、眺望景観の保全・活用の目標は、以下のとおりとする。

【眺望景観の保全・活用の目標】

～ 剣豪の郷としての歴史を感じられる眺望景観づくり ～

②眺望景観の保全・活用の方針

眺望景観が抱える課題を解決していくため、眺望景観の保全・活用の目標を具体化した「眺望景観の保全・活用の方針」を以下のように設定する。

【眺望景観の保全・活用の方針】

守るための方針

- ・土地利用の適切な誘導や土地利用間の際（きわ）の景観づくり、建築物等の形態意匠の景観誘導、山林の適切な管理などにより、農地の広がりや集落の麓の連なりによる良好な集落景観、四季折々の表情を見せる山並み等を保全する。

整えるための方針

- ・既に景観を阻害している建築物や工作物の修景や屋外広告物等の修景・除去等により、歴史的な集落に相応しい景観を形成する。

活かすための方針

- ・集落内に分布する多くの歴史文化遺産を散策し、剣豪の郷としての柳生の歴史的背景をもとに、見る人それぞれの感性により、多様な感じ方ができるような情報発信や空間づくりを推進する。
- ・剣豪の郷としての固有の歴史文化遺産に触れられ、人々の生活や生業・伝統産業等を感じられる集落空間の整備を推進し、観光振興と併せた地域の活性化を図る。
- ・柳生集落を一体の視点場と捉え、柳生集落におけるまちづくりのなかに眺望景観を位置付けることにより、眺望景観を集落の資産として地域住民が主体となって保全・活用に取り組んでいく。

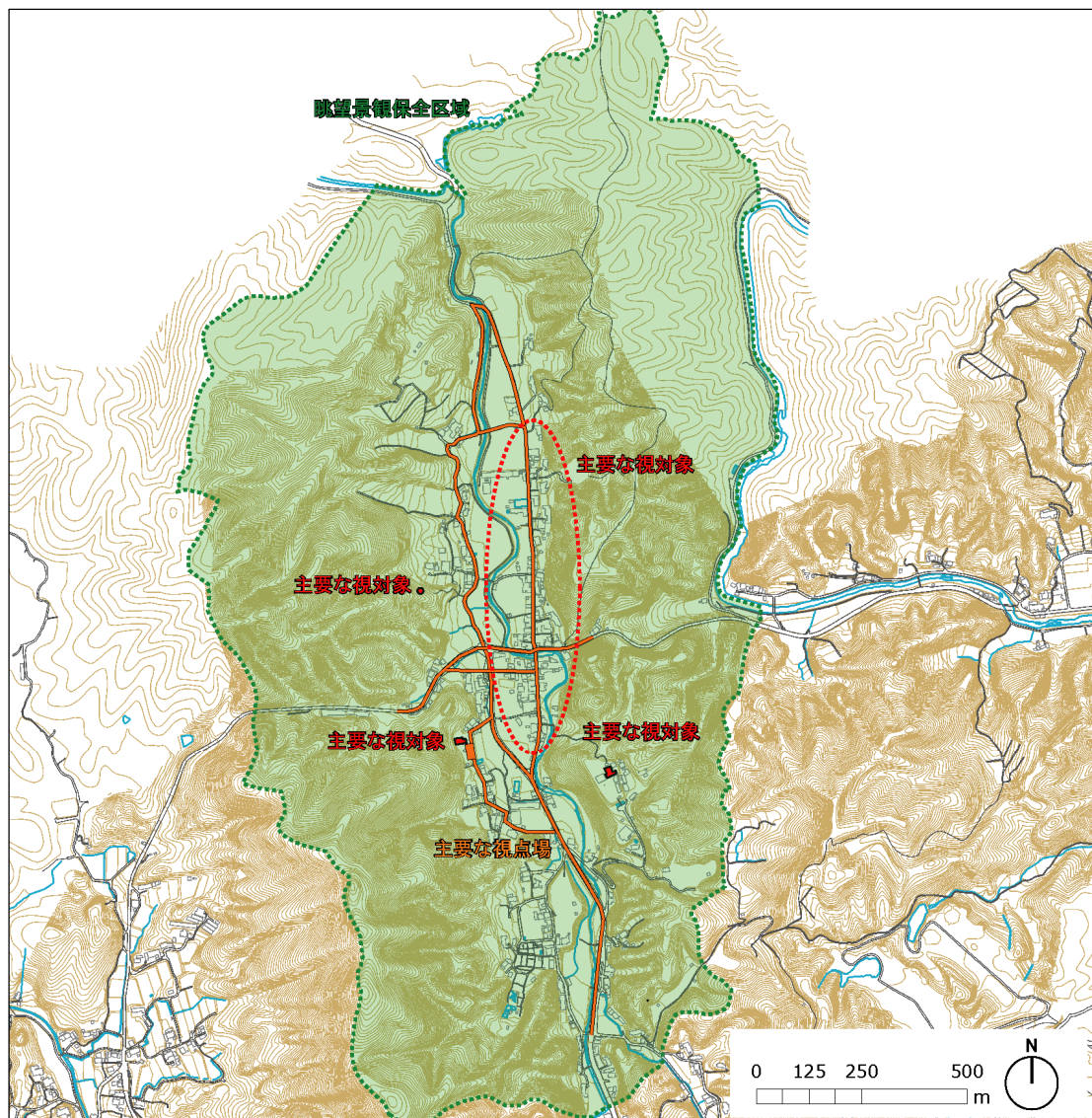
(4) 眺望景観の保全・活用の方策

① 守るための方策

○ 対象区域

(1) ①で設定した眺望空間全体を「眺望景観保全区域」とし、守るための方策の対象区域とする。

■ 眺望景観保全区域



○ 施策の方向性

歴史的な町並みや瓦屋根の連なる屋根並みの形成、屋外広告物の景観誘導等を図るため、柳生の里歴史的景観形成重点地区への指定を検討する。

歴史的建造物や景観上重要な建造物については、文化財の指定・登録や景観重要建造物の指定を検討する。

柳生の里の美しい農村景観ならびに広がりのある眺望景観をつくりだす農空間を保全し、営農と調和した景観の形成を図るため、景観農業振興地域整備計画の策定を検討する。また、遊休農地の市民農園等としての活用など、農空間の保全のための方策を検討する。

集落を取り囲む山林については、ナラ枯れ対策や台風等による被害木への対処ならびに森林の多様な機能を高度に発揮させるための景観施策を推進する。

(※) 柳生集落では、各資産が視点場であるとともに、視対象にもなるという構造を有しているため、ゾーニングは行わず、集落全体としての施策の方向性を示している。

②整えるための方策

○対象区域

「眺望景観保全区域」を対象とする。

○施策の方向性

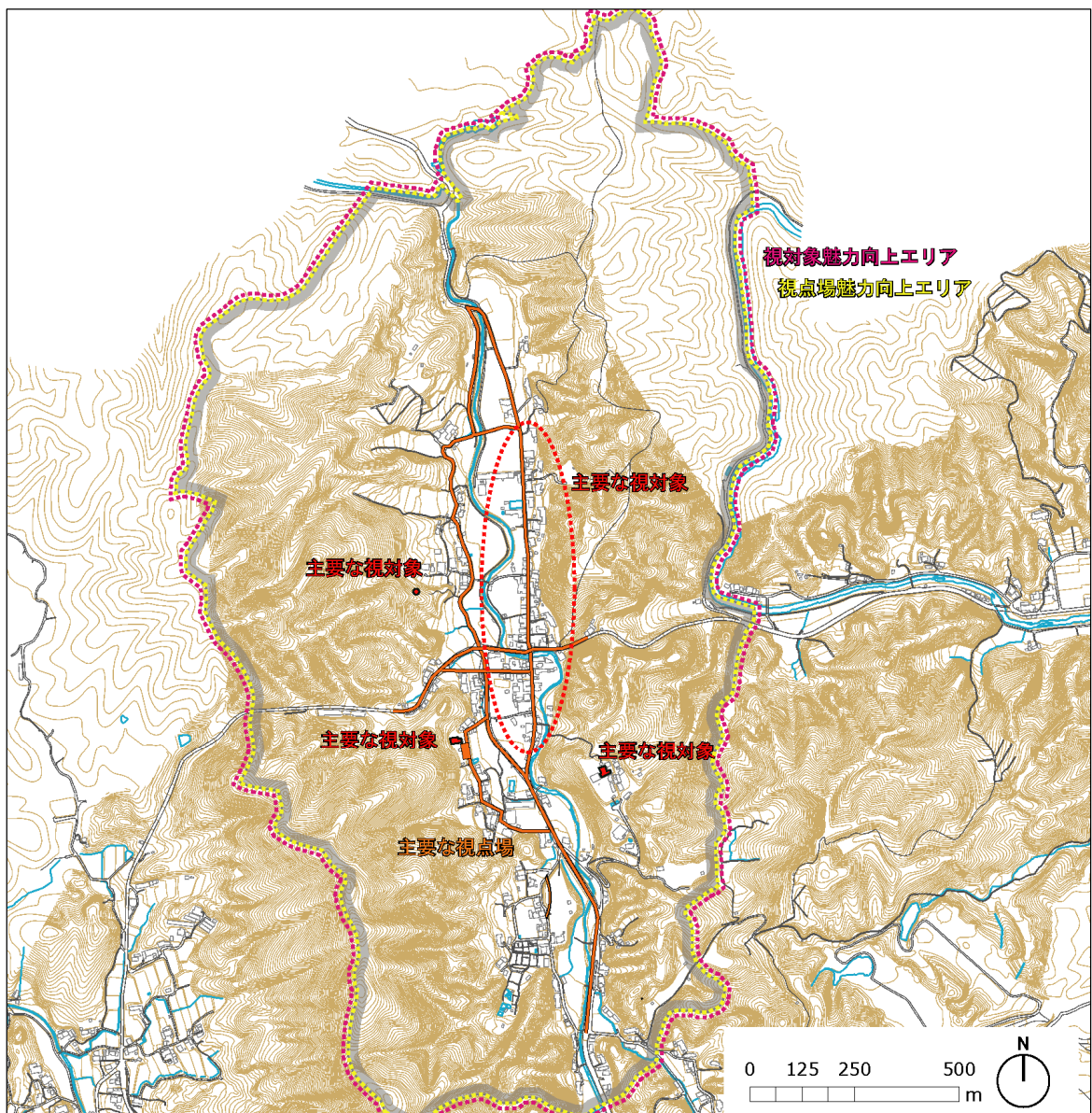
景観阻害要素の除去や修景のための助成制度の創設や景観保全型広告整備地区の指定などを検討し、所有者等との調整のもとに既に景観を阻害している要素の修景を進める。

③活かすための方策

○対象区域

柳生集落全体を「視点場魅力向上エリア」及び「視対象魅力向上エリア」に設定する。

■ 視点場魅力向上エリア及び視対象魅力向上エリア



○施策の方向性

＜視点場魅力向上エリア／視対象魅力向上エリア＞

柳生の里の区域内における歴史文化遺産ならびに良好な眺望景観を効果的かつ効率的に巡ることができる観光ルートの創設や観光マップの作成などにより、眺望景観を観光資源として積極的に活用していく。また、より多くの人々が、眺望景観から柳生集落の歴史や文化を感じられるよう、奈良市ホームページや情報誌等を通じて眺望景観に関する情報を積極的に発信する。

柳生集落を一体の視点場・視対象と捉えて魅力を向上していくため、人々の生活や生業・伝統産業等を感じられる場としての整備を推進するとともに、柳生集落のまちづくりのなかに眺望景観を積極的に位置付け、地域住民が主体となって眺望景観の保全・活用ならびに地域の活性化に取り組んでいく。